

< ゴールデンウィーク >

全ての日程を会社のラボルームで過ごした。過去問題にとらわれずに、幅広く勉強したつもりだ。基本的には会社から「取れ」と言われた上での受験なので何度落ちても堂々としていればいいという思いと、やはり最短で取るのが使命だろうという気持ちが交錯する。個人的にも何度も受験したいものではないし、早く楽になりたい。

ルートをアドバタイズさせるルータを含めて、合計で10台以上の機器をフルに活用して何度もシミュレーションを繰り返した。本職の仕事も決して楽ではない。徹夜作業の連続の中で勉強時間を確保しなければならない。ゴールデンウィークの前後で体力的には限界に達していたが、合格したいという気持ちだけで自分を支えていた。

前回は持っていく書類が重すぎて大変だったので、できるだけPCの中に詰め込むこととした。また、変圧器を必要としたCD-ROMドライブは電源不要(PCMCIAスロットから電源供給する)のものを近所のヤマダ電気で購入した。これは優れものだ。なお、ちゃんと経費で落とすことができました。ありがとうございます。

< 5月12日(土) >

出発日である。前回は到着日の翌日も余裕日としてホテルでの勉強に当てさせてもらったが、本職の仕事の日程も厳しいため、今回は余裕を削ることにした。到着は13日の朝で、そのままホテルで休養して翌日が試験日である。

今回もJAL利用だ。T-CATでチェックインと搭乗手続きを済ませリムジンバスで成田到着。但し、今回はEXITシートの確保には失敗した。JALの野郎、上客を優先させているんじゃないだろうな。EXITシートは事前のシートリクエストができないはずだぞ。なんでこんなに早くチェックインしても確保できねえんだ!

搭乗口前でぼけーっとっていると、何と修学旅行の団体が同じ便に乗り込むことが判明した。しかも半数以上の生徒が茶髪だ。こいつらが機内で騒ぎやがったら絞め殺してやるぞ、と誓った。

なるべく寝て行きたいので、普段はあまり飲まないビールなどをもらうが、これがまずい。マレーシアかどこかのビールだ。

定刻に出発。茶髪高校生たちの影響もなく、無事にシドニー到着。よかった。あいつらが騒いでいたら殺人者になるところだった。

< 5月13日(日) >

ホテルまでタクシーで向かう。が、何か違うところに向かっている気がする。迷っているみたいだ。しばしぐるぐる回ったあとで

「ここだ」

と言われたが明らかに前回とは違う場所だ。しかも寂しい場所だ。人通りも全くないぞ。こんなところで降ろされたらたまらんど、と思って

「ここではない！」

と抗議すると、「victor street」と「victor avenue」を間違っていたことが判明し、一件落着。運転手は

「I'm sorry...」

と謝って来たが

「No problem.」

だ。安全に着けば良しとしよう。

ホテルは前回と同じ。なお、今回は一人なので食事についてはあっと驚く用意をしてきた。一切外食をせずに済むように、レトルト食を中心に、ご飯も持ち込んでいる。海外で一人でレストランなどに行くのはつらいからだ。電子レンジやコンロは使用できることは前回の宿泊でわかっていたので、受験に専念できるように持ち込んだのである。しかし「さとうのご飯」は便利だ。これとレトルトのカレーや親子丼などがあればあっという間に食事ができあがる。海苔なども持ち込んで、日本にいるのとあまり変わらない食生活だ。

少し仮眠を取って勉強する。疲れはあるが、気力が上回っている。時差があまり無いのでその点は楽だ。

< 5月14日(月) >

朝5時に起きて最終確認をする。8時に荷物をまとめて受験会場に向かう。なお、辞書の持ち込みは許されている。念のため英和と和英の両方を持ち込むことにする。カンニング防止のため、辞書に余計なことが書いてないかどうかの確認はされる。

試験第1日目。プロクタは前回と同じだ。この野郎たちが俺を落とした奴等だ。今度こそ思い知らせてやるぞ。なお、今回の受験者は7人だ。

ロビーで待っているとプロクタが現れ、着いてこいと言われる。ブリーフィングが行われると思っていたら、いきなりラボルームに通される。まさかこのまま試験がスタートするのかよ、と思っていたら、その通り、いきなり試験が始まった。全く油断も隙もあつたもんじゃないぞ。俺は何度か受験しているので心構えもできているが、初めての受験だと面食らうことだろう。

内容はやはり難しい。うーん、どうなることやら。

そうこうしている内に昼飯だ。前はネイティブスピーカのNさんがいたので、外人とのやりとりを全てNさんに任せていたが、今回は一人なので大変だ。前回以上になるべく話しかけられないように、ずっと下を向いていた。昼飯は相変わらずマズイ。勘弁して欲しい。

昼食後、試験再開。夕方までみっちりやって、時間終了。手応えはあつた。間違いなく2日目には進めるだろう。もしかしたら45点満点中40点は取れたかもしれない。死にものぐるいで勉強した甲斐は

あった。

翌日の試験に向けて、ホテルで勉強を開始する。もしかしたら IS-IS など出題されるかもしれないので、シドニーのホテルから会社にログインして IS-IS を動作させられるルータを探した。あった、あった。7206 だ。しばし設定を試してログイン終了。数万円の通信料はかかっただろうが、まあ、許して下さい。あと、マルチキャスト等を中心に勉強する。

< 5月15日(火) >

試験会場到着。順番に呼ばれて合否が言い渡される。まさか落ちてないと思うが緊張する。何点で通っているのかも気になるところだ。少しでも高得点を取って、2日目を楽にしたい。

ついに呼ばれる。と、

「試験は12時までだ。間違った箇所は xxx と xxx と xxx だ。」

とかいきなり言われる。要するに1日目は突破したということだ。しかし

「点数は30～35点の間だ。」

とショッキングなことを言われる。なんだ、40点以上あると思っていたのに。。。しかも想定外のところを間違っている。ショック。。。

何も考える余裕もなく、2日目開始。7人のうち2日目に進んだのは私一人だ。難しい。問題の意図すら理解できないものもある。

なお、2日目の満点は30点。そこまでの合計点が55点で2日目の午後に進むことができる。私の場合は20～25点を取らないといけないということだ。最悪を想定すると、25点は必ず取りたい。つまり5点しか落とすことができないという計算だ。

どうしても解けない問題で既に4点の減点を覚悟したので、もう間違えることはできない。やばい、時間も無くなってきた。トイレに行く余裕も無い。まさにギリギリの状況だ。精神的に追い込まれていくのが自分でもよくわかる。

あっという間に試験終了。プロクタが

「べらべら・・・」

と何か話しかけてきたが全然聞き取れず、控え室で待つことにした。5点以上落とした気がする。元々の正確な持ち点がわからないので何とも言えないが、本当にギリギリだろう。

控え室で嫌な気分のまま30分ほど過ごす。と、突然プロクタに会議室に呼ばれた。さっき聞き取れなかったのは

「今から採点するから、その間に昼飯を食いに行くように」

ということだったようだ。しかし2日目の午後突破だ。やったぞ。すぐにトラブルシューティングの説明に入る。昼飯を食っていないが気にしている場合は無い。またここで驚愕の事実が発覚した。試験内容に関わることなので公開することができないが、今までの内容とは全然違う。正直言って狼狽した。もうダメかもしれない。こんな課題を解ける自信は無い。

また、自分の持ち点は55～60点の間と告げられた。最後のトラブルシューティングは25点満点だ。最終的に80点で合格である。最悪を想定すると1点も落とすことができない。大丈夫だろうか。全ての間違い箇所を探さないといけない。大変厳しい状況だ。

が、そんなことにお構いなしで試験開始。時間は3時間。途中、とんでもないトラップに引っかかってしまい、約40分を浪費した。もう時間が無い。正直言って合格はあきらめた。次回に向けて少しでも情報を得て帰りたい。が、あきらめてたまるかという気持ちで精神的に動揺する。3時間、無我夢中でトラブル箇所を探しまくった。何度も

「もうダメだ」

と思ったが、そのたびに奇跡的に頭が冴えて解答を見つけることができた。

何度も英語で

「正確な残り時間を教えろ！」

とプロクタに向かって叫びながら問題を解決していった。
残り10分の時点で、まだIP Reachability が保ててなかった。

どこに間違いがある？

どうしてneighborが上がらない？

わずか10分でどこまで解決できるか。もうダメだろう。いくら何でもIP Reachability が保ててなかったら不合格だろう。

が、神が降りてきた、と真剣に思った。

土壇場のギリギリの時点で奇跡的に頭が冴えた。
次々にneighborが上がっていく。

全ての Reachability を確認する時間はないが、多分、いける。

残り 30 秒。間違いを発見したが、書き換えるべきか。途中で終了してしまったら、せっかく上がった neighbor が落ちたままになるかもしれない。どうする？

勝負に出た。残り 10 秒の時点で config を書き換えた。コマンドにして約 10 行くらいだっただろうか。

途中で neighbor がダウンする。それは想定内だ。手が震える。
しかし、とにかく打ち込んでいく。

時間は足りるのか？

最後のコマンドを打ち終えた。

その時、後ろからプロクタが

「終了だ。控え室で採点が終わるまで待機しろ。」

と声をかけてきた。

neighbor はあがるのか？

席を立ちながら画面を凝視し続けた。

何かメッセージがコンソールに出力された。

内容は見えなかった。

俺が正しければあれは neighbor がアップしたというメッセージだ。

試験終了。すぐに退出させられる。合否判定まで控え室で待つように指示される。

「ちきしょう！ 何であんなトラップに引っかかったんだ！」

と自分を責める。ここまできて、あの口スはあまりにも大き過ぎた。自分の持ち点とトラブルシューティングの結果を何度も何度も考えたが、やはり合格には数点足りない気がする。最悪の気持ちだ。待ち時間はとても長く感じた。

と、プロクタがラボルームから出てきてどこかへ行ってしまった。何だろう？ と思うが戻って来ない。俺の結果はどうなんだ！

しばらくしてプロクタが戻ってきた。いきなり渋い顔だ。ああ、やっぱりダメなのか、と思ったところで、

「**Congratulation ! You are CCIE !**」

と握手を求めてきた。そんなにためるんじゃない。お前はみのもんたか！ 俺はミリオネアに出場してるんじゃないぞ！

とにかく合格だ。プロクタは

「1日目はまあまあだった。2日目はあまり出来がよくなかった。これからも頑張るように。」

とコメントをくれた。いろんな思いが頭を駆け巡り、情けない話であるが涙が止まらなかった。たかが資格だが、自分にとって会社の他のメンバーに追いつくための挑戦だった。そのためにほとんどを休日出勤して勉強するなど無理もした。落ちるたびに、もうダメだ、と思いもした。いろんな人のお世話にもなった。

晴れやかな気分でホテルに帰る。すぐに部長をはじめお世話になっている人たちに合格の一報を入れる。自分の留守の間をカバーしてもらった K-GL にも感謝だ。

< 5月16日(水) >

ここで失態を演じてしまった。前回、空港で朝食を食べた時に春巻きを選んで大失敗した私であったが、なぜか吸い込まれるように同じものを注文してしまったのである。なぜその様な失敗をしたのか、全くバカな話である。

帰国後、私はある事を実行に移した。この試験に合格したら、自分への褒美という意味でオメガスピードマスターを買うことに決めていた。翌週には購入した。現在、私の左手首に輝いている(というほど高価なものではない。まあ気持ちの問題だ)。この時計を見るたび、私は初心を忘れずに日々精進に励むことであろう。